

ブナの天然林施業について

たかだ まきのぶ

むつ営林署 ○造林係長 高田 正信

にいだ しげる

森林管 新井田 繁

1. はじめに

白神山地が世界遺産として登録されて以来、ブナの人気が急速に高まり最近では、青森県のヒバより白神山のブナを知らない人は無いと言っても過言ではありません。

その背景には、ブナ林は希少価値が高く四季折々がなす美しさとその魅力、公益的機能などがマスコミに取り上げられ、その貴重さがPRされてきた結果と思われる。

そこで我が署のブナの天然更新がどのようになっているか調査してみたところ、そのほとんどの更新種が補助作業を加えない天然下種Ⅱ類で処理され現地の状況も笹等が密生しているなど更新が図られたとはいいがたいと思われる箇所も見受けられるので、確実な更新を図るためブナの天然林施業に取り組んだので、その経過と結果について発表する。

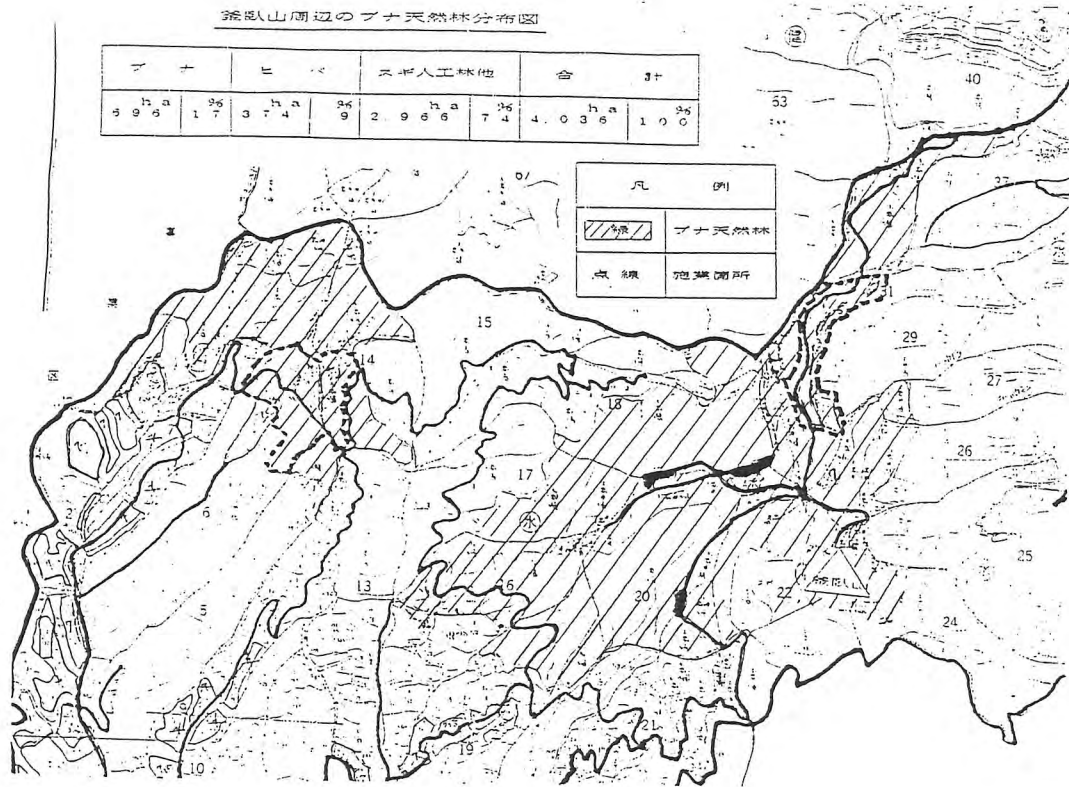
2、天然林施業の方法及び経過について

(1) まず我が署の釜臥山周辺のブナ天然林の分布面積と施業箇所について説明する。

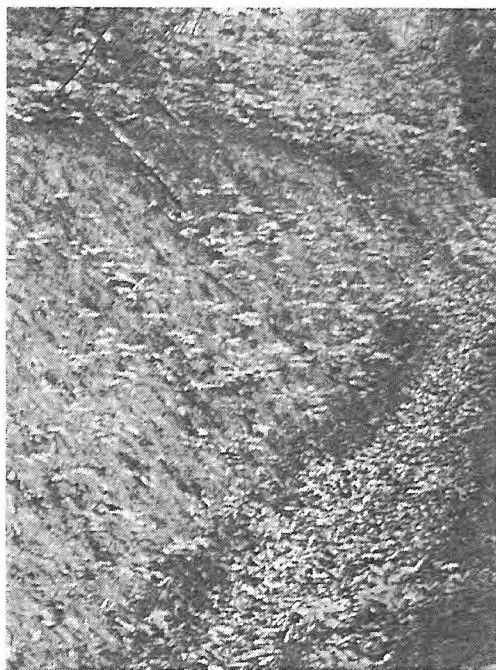
ブナ天然林は釜臥山周辺一帯と角違流域一部の標高400～700mに分布しておりその面積は696haで周辺全体の森林面積4,036haの17%を占めている。

次に、施業箇所ですが荒川山国有林31号小班で釜臥山展望台を結ぶ観光道路の沿線と角違流域の横断林道周辺の榎沢山国有林6は、14号林小班の2ヶ所です。この流域は観光客、山菜取りの入林者が多いこと、道路沿いで、作業がしやすいことなどPR効果も考慮し実行することにした。

(2) ブナの稚樹は、林道の法面、搬出路、土場跡地等によく見られます。地表が裸地状態で種子の着床条件が良いところに2～3年生の稚樹がむらなく一面に発生しています。また、昔の炭焼き跡地で笹が全くない普段見かけない意外な場所にも立派なブナの二次林が成林していた。



写 — 1 釜臥山周辺のブナ天然林分布図



写 — 2 林道法面及び搬出路のブナ稚樹



写 — 3 30～70年生のブナ二次林

(3) ア、施業箇所の林況は150年生の老齢過熟林分で平成3年度から5年度に択伐し、林床型はブナ稚幼樹がほとんど見られないチシマ笹が密生しているササ型であり、種子の着床、稚樹の生育を著しく阻害している林分であり3年間において次の作業を実行した。

イ、釜臥山観光道路沿線の荒川山国有林31林班は、5年度20ha、6年度17haと2年間にわたり地拵作業を実行、作業方法は全刈とし人力と一部電動刈払機で実行しました。角違流域の6林班、14林班については7年度に地拵作業を実行し作業方法は笹が厚いことから搬出により笹が被圧され薄くなった所を主体に人力で13ha、電動刈払機で5ha筋刈りで実行し、また、トラクタを導入してレーキを装着させ地表かき起こし作業を概ね一区画100～200㎡の広さで30ヶ所、2haを実行した。

ウ、下刈作業は、6年度全刈で20ha、7年度は筋刈で15haを実行しました。

(2) 表-1

作業方法、手段別内訳表

項目 年度	地 拵											
	全 刈				筋 刈				トラクタ		計	
	人 力		刈払機		人 力		刈払機		(地表かきこし)			
5年度	ha 19	人 168	ha 1	人 5							ha 20	人 173
6年度	ha 17	人 79									ha 17	人 79
7年度					ha 13	人 81	ha 5	人 17	ha 2	人 7	ha 20	人 105

項目 年度	下 刈							
	全 刈 - 筋 刈				計		備 考	
	人 力		刈 払 機					
5年度								
6年度	ha 15	人 90	ha 5	人 26	ha 20	人 116		
7年度	ha 12	人 42	ha 3	人 8	ha 15	人 50		

7年度施業地の林況と作業状況



写 一 4 施業地の林況



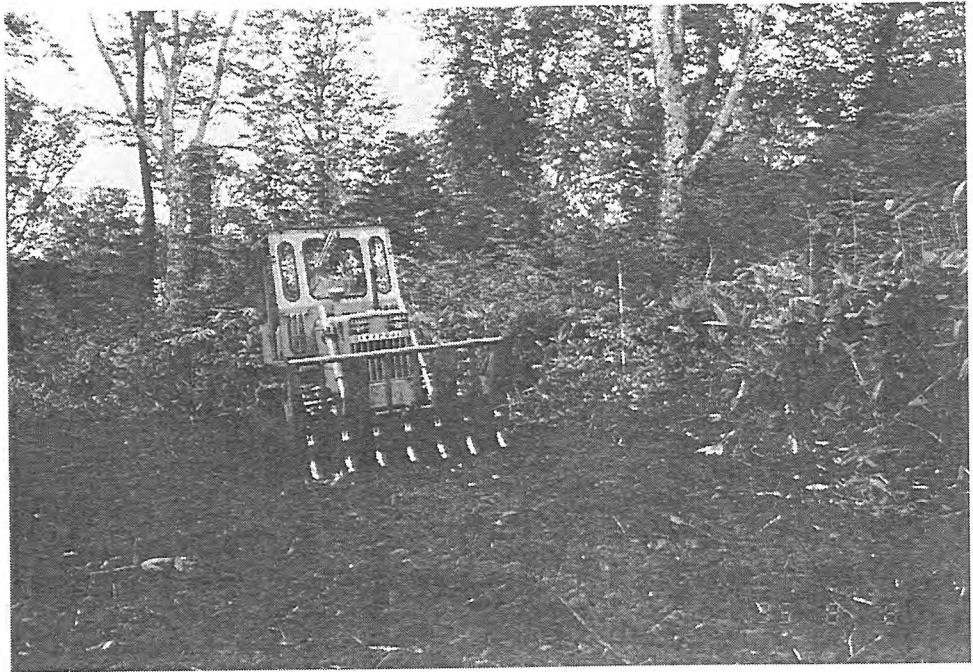
写 一 5 施業地の林況



写 — 6 人力作業



写 — 7 刈払機作業



写 — 8 トラクタ作業



写 — 9 トラクタ作業終了

3. 施業の実行結果について

- (1) 地拵と下刈を実行した31ろ林小班について、稚樹の発生状況について調査を実施したところ、5年度の箇所で100㎡当たり80本生立しておりHA当たりでは8千本となり、6年度の箇所では100㎡当たり22本が生立しておりHA当たり2,2千本となります。同一小班であり平均するとHA当たり5,1千本が生立していることがわかった。
- (2) 稚樹は比較的笹が薄く地表が露出している日当たりの良い高い場所に多く見られ、補助作業を実行した結果と判断される。
- (3) 7年度実行した箇所については、来年度以降の調査となりますが、今年度は、ブナの実が豊作とのことから、特にトラクタ地拵箇所には多くの稚樹の発生を期待したいものである。

表-2 稚樹の発生調査表

本数 年度	稚樹生立本数 100㎡当たり	HA当たり	備 考
5年度	80本	8,000本	31ろ林小班 平均HA当たり5,100本
6年度	22本	2,200本	
7年度	——	——	次期調査

稚樹の発生調査



写一 10 5年度地拵箇所



写一 11 6年度地拵箇所



写 — 12 7年度植樹祭

4. 考察

我が署として初めてブナの育成天然林施業に取り組み、施業方法についても様々実行し確実な更新を図ることに努めてきた。

その結果として、稚樹の発生は障害となっている林床植生を除去することで可能であることが多少なりとも明らかになったと思っている。

現在のところまだ芽を出したばかりの稚樹であり、更新完了時点までには継続した保育作業等を今後実行していかなければならないと考えている。そして、前段で紹介したような二次林の造成に努力することが、私たち林業に携わる者としての使命でもあり、これらのことを踏まえて施業地を観察林として位置づけると共に、引き続き観察、調査などを実施しながら、釜臥山周辺のブナの天然林施業に取り組んでいきたいと考えている。